本のあるまちづくりの推進について

本が心を満たし、本を介して人がつながるまちをめざして

令和8年（2026年）7月31日

豊中市教育委員会事務局　読書振興課

1. 諮問の趣旨

豊中市立図書館は、昭和20年（1945年）の開館以降、市民との対話を重ねながら、市民の情報拠点としての図書館づくりを進めてきました。令和2年度（2020年度）に、将来ニーズへの対応と効率的な運営をめざした指針として（仮称）中央図書館基本構想を策定し、以降、市民の利便性や快適性を高めながら、施設再編や電子書籍サービスの導入など、新たな取り組みを行っています。これまでの各図書館における実践を総括するとともに、昨今の地域・社会情勢等を勘案し、新たな読書振興政策の展開として**「本のあるまちづくり」**に向けた方向性を定めるため、諮問するものです。

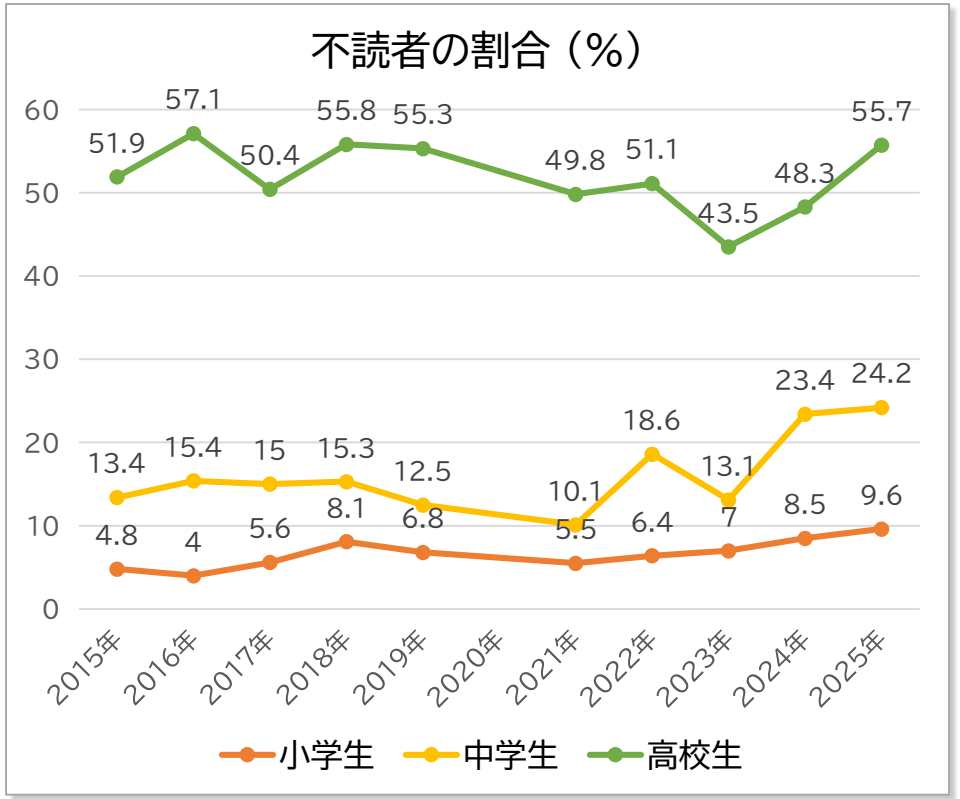
年　度	豊中市立図書館の取組み	内 容 等
令和2年度（2020年度）	（仮称）中央図書館基本構想を策定	中長期的な図書館サービス、（仮称）中央図書館を核とした図書館ネットワークの考え方を整理
令和4年度（2022年度）	電子書籍貸出しサービスの開始	※16,505タイトル（R8.7月現在）
	庄内図書館を庄内コラボセンター「ショコラ」に移設	庄内幸町図書館も集約化
	豊中市立図書館みらいプランを策定	基本構想にもとづき施設再編の方向性・新たなサービス展開を示す
令和5年度（2023年度）	図書館で一時保育事業、東豊中図書館もぐもぐ広場開始	一時保育事業は順次拡充（岡町・千里・野畑→蛍池）
	野畑図書館に自学自習室を設置	2階の参考室を自学自習室に変更。参考図書を1階へ
	（仮称）中央図書館の第一候補地に曽根駅前民有地を選定	駅前商業施設との合築を想定した協議を行う
	豊中駅図書サービスポイント　開設	至便な立地で予約資料の貸出、返却に特化した機能
令和6年度（2024年度）	（仮称）中央図書館整備計画　策定	第一候補地での整備を前提にした施設整備計画
令和7年度（2025年度）	蛍池図書館　リニューアルオープン	「誰もが居心地のよい図書館」がコンセプト
	第一候補地民有地事業者との整備交渉を打ち切り	第二候補地である豊島公園内での整備検討に移行
	曽根駅周辺まちづくりプロジェクト・チーム発足	
令和8年度（2026年度）	庄内よつば学園（学校図書館）の地域開放	公民分館などと連携し、学校図書館とランチルームを開放

2. 本のあるまちづくりに向けた課題意識 ①

【参考資料1】図書館来館者へのアンケート調査（令和7年度（2025年度））より、「図書館があることによる効果（インパクト）」を問う設問への肯定的な回答の割合は以下のとおり。図書館来館者からは、「自分の世界（知識や視野）が広がったと感じる」「日常を離れて読書や考え事に集中できる」「リフレッシュする」など知的・感情的な側面で肯定的な回答が多くみられました。

内容	肯定的な回答の割合
自分の世界（知識や視野）が広がる	約96%
日常を離れて読書や考え事に集中できる	約90%
物事を様々な角度から深く考えるきっかけになる	約90%
ワクワクしたり感動したりすることがある	約89%
本の世界を楽しんだり、新しいアイデアが浮かぶ	約88%
気持ちがリフレッシュする	約88%
暮らしや悩みの解決に役立つ情報が見つかる	約87%
自分とは違う生き方や考え方に触れられる	約85%
新しい趣味や活動のきっかけが得られる	約80%
地域とのつながりや安心感がある	約69%
他者との対話や交流のきっかけが生まれる	約49%

一方で、近年の情報通信技術の進展はめざましく、本を読まずとも手軽に簡略な情報を得られる社会となっています。 高校生の「不読率」（1か月に1冊も本を読まない人の割合）は55.7%（令和7年度調査）であり、義務教育修了後に読書から遠のく人が増える傾向にあります。



出典：公益社団法人全国学校図書館協議会「第70回学校読書調査（2025年）」

現在の図書館利用者ニーズが充足するだけではなく、次の世代が、本に親しみ、本で育む継続的な取り組みをまち全体で進めていくことが必要。

2. 本のあるまちづくりに向けた課題意識 ②

これまで実施してきたワークショップやアンケートでは、図書館が本の貸出・閲覧にとどまらず、学び・居場所・交流など様々な機能や場としての役割を担うことへの期待がみられました。

また、本市においては子ども文庫が14文庫あり、子どもの身近な居場所として、また子どもをとりまく大人の交流の場として、地域に根づいた活動が行われています。

公共施設内での本の設置や学校図書館の地域開放、地域の民設図書館、魅力ある書店など、豊中市内のさまざまな場所で本を介したゆるやかなコミュニティづくり、本のある交流スペースの設置といった動きも広がりつつあります。

地域のさまざまな場所で本に出会い、本に親しみ、本で育み、本でつながるまちを市民とともにつくっていくためには？

市立図書館のネットワークやノウハウも生かしながら、歩いて行けるところに図書・学びの空間を広く展開させていくためには？



子ども文庫／仲よし文庫（東豊中町）



中央公民館１階　本コーナー（曽根東町）



よつば学園での学校図書館の地域開放（千成町）

3. 本のあるまちづくりによりめざすまちの姿

めざすまちの姿を市民の皆さんと共有し、実現していくため、取り組みの方向性をビジョンとして取りまとめ、方策を検討していきます。初年度となる今年度は、市民の皆さんとともにビジョン骨子案を検討するとともに、本のあるまちづくりに向けて市立図書館が果たす役割を整理します。

本のあるまちづくりにより、めざすまちの姿（案）

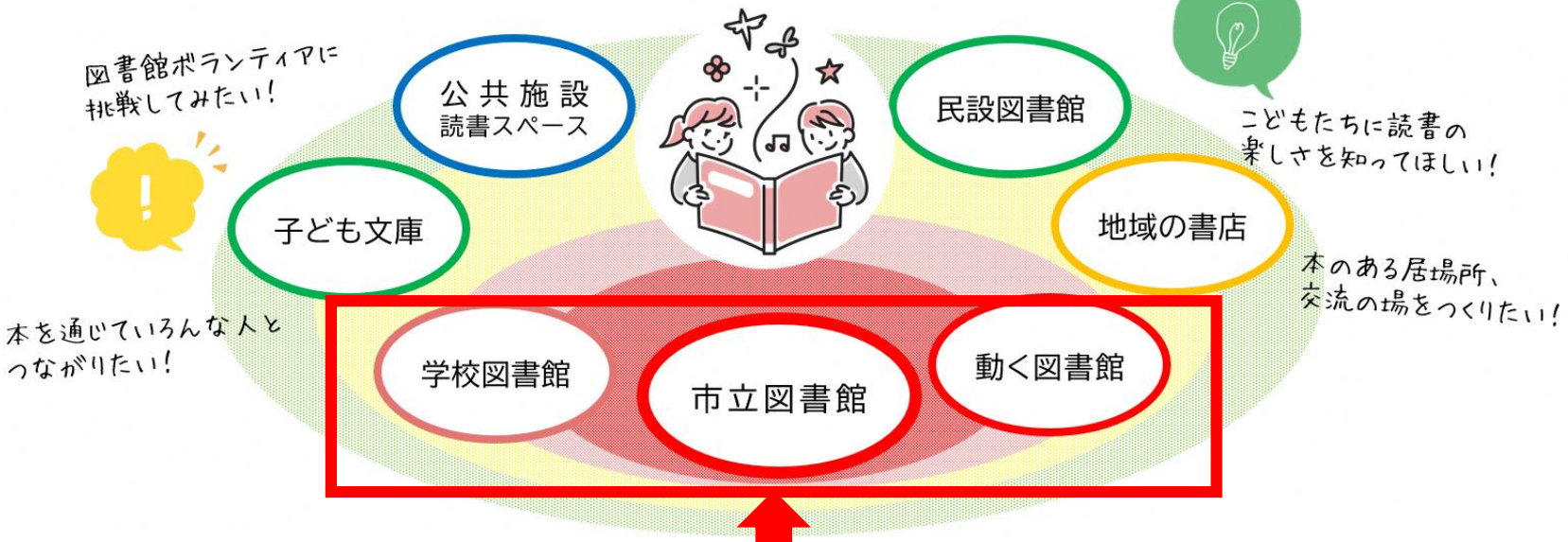


多様な本と出会い、ひとりでも、仲間とでも、本を楽しめるまち

ライフステージのさまざまな場面で本に親しむきっかけがあるまち

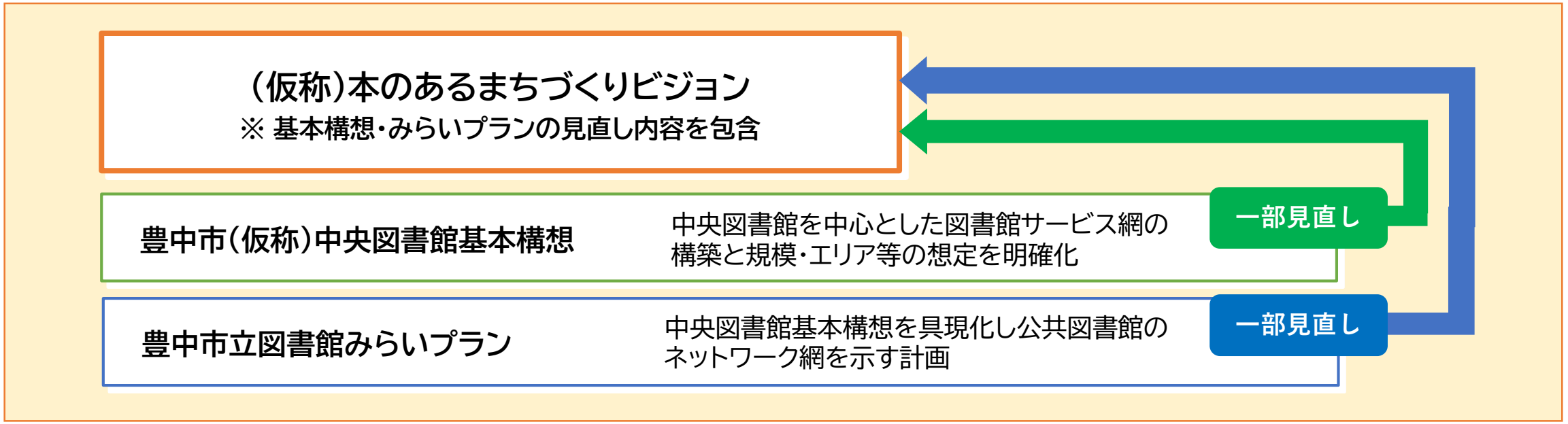
本を介して人とつながり、人生を豊かにできるまち





まず核となる市立図書館が果たす役割について整理

4.（仮称）本のあるまちづくりビジョンの位置づけ・見直しのポイント



時点修正するポイント

- 持続可能な施設運営を踏まえた施設再編後の想定規模、蔵書規模(※1)、役割・機能、スケジュールについて
  （※1：蔵書について、全市で100万冊の目標は維持）
- 電子書籍サービスの拡大、読書バリアフリーの推進などの進捗状況を反映

R8年度

バージョンアップ・新たに追加するポイント

- 地域のさまざまな場所で本に出会い、親しむことができるまちにしていくための方策について
- 図書館が核となり、地域における読書推進の取り組みをさらに活性化させる方策について

R8年度
R9年度

5. 市立図書館の役割　実践と今後の課題①

基本構想の策定以降、市立図書館が実践してきたさまざまな取り組みから、今後の方向性を検討します。

庄内図書館　庄内コラボセンター（愛称：ショコラ）内
令和5年（2023年）2月　開設







- 公民館、子育て支援センター、保健センター、市役所出張所等との複合施設。旧庄内図書館・庄内幸町図書館を集約化。
- 小中一貫の義務教育学校「庄内さくら学園」が隣接している。
- 庄内コラボセンター1階の吹き抜け部分にはカフェスペースが設置されており、壁面一面に本棚が据えつけられた図書館リサイクル本の販売コーナーがある。カフェ営業時には、しょうないREKによるリサイクル本の販売を実施。開設当初から徐々に担い手が増加している。
- 毎年秋に開催される地域活性化イベント「ショコラフェスタ」では音楽・スポーツ・ものづくり・食をテーマに、図書館をはじめとした各施設や地域団体が多彩なイベントを実施。
- 多文化共生コーナーを設け、多文化理解を深める資料や情報を充実させている。庄内公民館主催の「日本語教室」参加者に向け、図書館の利用案内を行う「やさしいにほんご図書館見学ツアー」など、多様な取り組みを実施。

■ 課題

多文化共生の取り組みの横展開、教育機関や関係機関とのさらなる連携

5. 市立図書館の役割　実践と今後の課題②

豊中駅図書サービスポイント　阪急電鉄宝塚線北改札口
令和6年(2024年)2月　開設

- 予約資料の貸出・返却機能に特化。交通至便な立地に設置された図書サービスポイント。

- 豊中駅図書サービスポイントの年間利用者数
  令和5年度(2023年度)　6,159人
  令和6年度(2024年度)　52,513人
  令和7年度(2025年度)　52,094人

- 令和8年度(2026年度)中に導入予定である図書館アプリの周知に併せ、多様な生活スタイルやニーズに対応できる「図書館の使いこなしかた」を提案していく。
- 同じ駅構内にあるエキスタとよなか(パソコン・スマホ相談、講習会などを実施する情報リテラシーを向上させるための推進拠点)との連携も検討中。

■ 課題
・利用者数が横ばいのためサービスポイントの一層の周知と、予約システムの利用方法の周知が必要
・次期システム更新に向け、よりスムーズな本の流通手法を検討





5. 市立図書館の役割　実践と今後の課題③

蛍池図書館　蛍池ルシオーレ内　5階
令和7年(2025年)4月　リニューアルオープン





- 公民館やパスポートセンター、教育センター、民間商業施設との複合施設。
- 多世代交流を促進する、明るい雰囲気の図書館。

- こども・若者・子育て世代がより使いやすい機能を備える。
- 市民ワークショップのご意見から、予約多数の人気の本などを読める閲覧専用図書コーナー、飲食可能な読書スペース、自学自習可能な読書スペース、靴を脱いでくつろげるスペース、授乳室、親子トイレなどを設置している。

- 図書館と公民館の連携事業、地域の書店や民間カフェと協力して行うイベントなど、多彩な事業を展開している。

■ 課題

・リニューアル後、新たな利用者層にも利用が広がっている。一方で、静かに本を読みたい利用者からご意見もある。
・職員からの声かけや館内の表示等を工夫しながら運営している。

5. 市立図書館の役割　実践と今後の課題④

動く図書館「とよ1ぶっくる」による巡回サービス

- 図書館から離れたエリアや来館が困難なこども達が通う児童発達支援施設など合計19か所へ巡回
- 大阪府内で最も歴史のある動く図書館
- 図書館協議会での議論をふまえ、PRを強化
（他の部局との共催事業やイベントへの出動を計画）
- 秋にはスペースの確保が可能なステーションにおいて「あおぞらおはなし会」を実施
- 近隣では事業を廃止する自治体もあり、減少傾向
（大阪府内43市町村のうち、移動図書館事業実施19市）

■ 課題
・車両が大きいため、停車できるスペースに制限がある
・利用ニーズの掘り起こし、新たな利用者層の開拓



読書バリアフリーへの対応
障害者サービス、多文化共生サービスなど

- 視覚障害者、聴覚障害者、知的障害者、施設入所者、入院患者、高齢者、外国人等、さまざまな状況により読書や図書館の利用に困難を伴う人へ配慮
- 点字図書や音声デイジー図書、マルチメディアデイジー図書、大活字本などの資料や、対面朗読サービスや宅配貸出・郵送貸出の実施、支援学校等への動く図書館の巡回など、図書館に行くことが困難な人に配慮した取り組みについて、適切な情報提供を行う必要がある。

■ 課題
・ニーズの変化や、デジタル化による新たなサービスへの対応
・国際交流、障害福祉など、関連部門やボランティア団体との連携



5. 市立図書館の役割　実践と今後の課題⑤

（仮称）中央図書館
豊島公園内に多機能複合施設として整備する案を検討中



- 曽根駅周辺まちづくりプロジェクト・チームにおいて「豊島公園再整備基本計画」の策定に向けたワークショップなどを通じ、検討を進めている
- 図書館に加え、こどもの賑わい空間や多世代交流空間など、関連施設を合わせた多機能複合施設として整備し、長く滞在できる多様な魅力を創出。
- 同時期にリニューアル予定の豊島公園との一体性も確保し、公園内の立地ならではのメリットを最大限活かした施設をめざす。
- （仮称）中央図書館としては、各図書館への支援をはじめ、選書や読書振興に関する企画部門などを集約し、図書館サービスの全体の質を向上させることが必要。



■ 課題
・地域資料の集約化、複合施設内の効果的な閲覧環境の整備、中核的機能の充実
・各図書館を核に地域共創をすすめるための人材育成

6. 各図書館の今後の方向性（案）

本のあるまちづくりの核となる市立図書館の今後の再整備等の方向性（案）は以下のとおりです。今年度は、図書館のある8会場において市民意見交換会を実施するとともに、アンケート調査を行い、市の考え方の説明や地域ニーズの把握を行います。

施　設	今後の整備方針や、強化していきたい機能のイメージ
千里図書館（地域館）	子育て支援センターほっぺ分室と同フロアでの図書館リニューアルを検討。 子育て支援機能との併設により、千里中央地区の立地特性を活かし、親子が楽しく安心して長く過ごせる空間を創出。
庄内図書館（地域館）	令和5年2月再整備済。地域活動団体と連携しながら、庄内よつば学園（学校図書館）の地域開放事業を実施。
高川図書館（分館）	図書館以外にコラボスペースとして、多世代が集える交流空間やイベント用スペースなどを整備する。
野畑図書館（分館）	周囲に集会施設等が少ない現状を踏まえ、2階を地域の集会機能や自習スペースとして活用する。
東豊中図書館（分館）	こども園との複合施設である特徴を生かし、こども・子育て世代が利用しやすい施設として当面継続。
蛍池図書館（分館）	令和7年4月リニューアル済。子育て世帯がゆったりと過ごせる空間や飲食可能スペース等を確保。 （仮称）中央図書館の開設に向け、引き続き新しい図書館の可能性を試行。市民協働事業の取り組みを推進。
服部図書館（分館）	（仮称）中央図書館の開設に向け、民設の情報ライブラリーの拠点化を検討。本のある空間・憩いのスペースを確保する。

※地域館・分館の定義について

地域館：一般書や児童書など、身近な図書館として利用の多い資料の提供に加え、地域ニーズに応じた資料（ビジネス、多文化等）を集積し、提供を行う
分　館：一般書や児童書など、身近な図書館として利用の多い資料の提供を行う